



農業知識広場

# 農へのこだわり

〜知っててよかった〜

向井健 指導員



野菜は、土作りが大事です。バランスの取れた土作りで生理障害の出にくい圃場を作ってください。

## 『春先の保温対策』

早春から栽培を始める場合には、保温する資材が必要です。面積が広い、または定植本数が多い場合は、ビニールハウスやトンネルで保温します。

ビニールトンネルは、最も有効な防寒方法ですが設置には手間と資材費がかさみます。苗本数が少ない場合は、同じ効果が得られて安価にできるホットキャップや苗帽子などの商品もあります。

今回は、そのような保温資材の紹介を行います。

### ●ホットキャップ

グラスファイバーの支柱や竹、針金を十字に組み土に挿し、その上をフィルムで被い周辺を土で被います。天頂部には穴を空け温度の上がりすぎを防ぎます。



### ●行灯式



肥料袋などの底を切り取って筒状にし、苗を定植した後四方に支柱を建て広げて固定します。頂部は最初から開いたままで、苗が大きくなるまでそのまましておきます。保温力は、ホットキャップに比べて劣りますが、容積が大きく取れる利点があります。

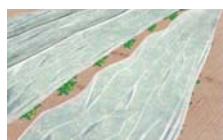
### ●苗帽子



苗の上から苗帽子をかぶせます。針金脚をふちの孔に差し込み、ふちに土をすきまなく十分かけてください。上部に換気穴がついているので、ドーム内の急な温度の上昇を防ぎ、保温効果を持続します。スリットが葉やけを防止し、内部に適度の水滴がつくことで、光や湿度も苗に最適な環境が保たれることから、苗が成長し、中で一杯になるまでそのままにしておきます。

苗帽子を取るときは、風のないおだやかな日を選んで外します。

### ●不織布



ごく薄い化学繊維が原料の不織布で軽量のため、作物の上に直接被服することができます。光の透過は若干妨げられますが、風を和らげ、夜間の保温性を高めます。

一般的な苗の上に直接かけるベタ掛けと支柱の上にかけるトンネル掛けがありますが、どちらとも収穫までかけたままにしておけます。

### ●ユーラックカンキ



保温、明るさ、耐久性に優れた透明ユーラックに、換気孔を開けたトンネル用フィルムです。夜間の温度差が密閉トンネルより小さく作物が健全に育ち、低温耐性も強化されます。トンネルの開け閉め作業

が必要ないため、換気作業が大幅に省力化でき大規模栽培にも適しています。

## 今月の農作業

4月になると気温も上がり、下旬からは果菜類等の春夏野菜の定植が始まります。土づくりとして、堆肥は早めに入れ土壌とよく混ぜておきます。定植の1週間前には基肥や石灰質肥料を施用し圃場を準備します。

定植については苗はあまり深く植えないようにしましょう。特に接ぎ木苗を買ってきたときは、接いでいる部分が土に埋まらないように注意します。

また、苗を購入してから定植までに何日も置いてあったときなどは、植える前に液肥を与えると、植えてからの生育が良くなります。

営農のことにに関するアドバイス

## 営農110番

水稲・野菜・花き・果樹など、農業に関するアドバイスをいたします。

受付：平日 9:00～17:30

- 広島南営農事務所 ☎(082)849-6355
- 広島北営農事務所 ☎(082)841-4919
- 山県営農事務所 ☎(0826)85-0020
- 本店指導販売課 ☎(082)870-5893

※本店指導販売課では土曜日9:00～12:00まで対応